



令和4年度（2022.4～2023.9）

（半年間延長の特別措置を含む）

日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト
（NipCA プロジェクト）

Nippon-Foundation Central Asia-Japan Human Resource
Development Project

事業報告書（概要）

筑波大学

事業 ID: 2022014478

令和4年度（2022.4～2023.9）
（半年間延長の特別措置を含む）
「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト（NipCA）」
活動概要

筑波大学は、大学の世界展開力強化事業「ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム」（2014.3～2019.3）の教育レガシーの一部を継承・発展させた新しいグローバル人材育成事業として、公益財団法人日本財団から教育・研究助成を受け、2019年1月から「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト」（以下、NipCA プロジェクト）を開始し、2022年4月から4年目を迎えました。

本事業は、日本財団、日本・中央アジア友好財団（JACAFA）、筑波大学の三者が協力・連携し、中央アジア（アゼルバイジャンを含む6カ国）地域の「持続可能な開発目標 SDGs」の達成と当該地域社会の課題解決に貢献できる人材を育成することを目的としております。プロジェクト4年目となる2022年度は、本学NipCAプロジェクト運営委員会（委員長：加藤光保副学長・理事【教育担当】、副委員長：ベントン キャロライン副学長・理事【国際担当】（2023年4月より、池田 潤 副学長・理事【国際担当】に交代）、副委員長：原晃副学長・理事【医療担当】、附属病院長）で承認を受けた事業計画に基づき、大学執行部の助言と指導の下、実務責任者1名（教授）、実務副責任者2名（教授）、プロジェクト専任教員1名（准教授）、コーディネーター1名（University International Administrator）、研究員3名（1名は2023年6月30日に退職）、事務スタッフ3名で実務・運営を行っています。

活動内容としては、①日本財団、JACAFA、筑波大同窓生ネットワーク連携活動、②中央アジア・日本の双方向の教育・研究交流、③中央アジアに関係する国内外のネットワーク強化や公開シンポジウム等による教育・研究成果の社会への還元を目指した基盤構築活動の3つをプロジェクトの柱として展開しています。

具体的には、筑波大学大学院人文社会科学研究群国際公共政策学位プログラム（博士前期課程）の正規学生として、中央アジア及びアゼルバイジャン出身の優秀な留学生を受け入れ、留学生全員に対して、NipCAプロジェクトのフェロースhip生として、渡航費、学費、寮費、生活費が支給され、安心して学位取得のための勉学に打ち込める環境を用意しています。2021年3月には第1期NipCAフェロースhip生6名（1名は病気により在学延長し、9月修了）、2022年10月には第2期NipCAフェロースhip生7名（新型コロナウイルス感染症の影響による来日の大幅な遅れを考慮し、特別に半年間の修学期間を延長）、2023年9月には第2期NipCAフェロースhip生6名が学位（修士／国際公共政策）を取得し、将来、中央アジア諸国・地域の各界のリーダーとして社会課題解決に資する有為の人材になることが期待されています。2022年4月には本学大学院人間総合科学研究群の公衆衛生学学位プログラム（博士前期課程）で学ぶ第4期フェロースhip生1名、2022年10月には国際公共政策学位プログラムで学ぶ第4期NipCAフェロースhip生7名が入学し、現在修士論文

の執筆に専念しています。来年3月には、初めて公衆衛生学を専門とするフェローが修了する予定です。2023年10月には第5期NipCAフェロー生8名も入学しました。フェローシップ生たちの研究活動を支える目的で、SDGs英語文献を購入し、NipCAプロジェクトSDGs資料室の整備も行い、フェローたちが研究活動に利用しています。

本年度のプロジェクトは、コロナ禍から脱却し、研修事業をはじめとするほとんどの事業で対面活動を再開することができました。10月にはJACAFA日本研修プログラム(5名受入)を2年ぶりに実施し、Japan Central Asia Exchange Forum 2022を開催して、JACAFAフェローと本学の中央アジアからの留学生との交流を促進しました。2023年2月には、ロシア語・カザフ語研修として、本学の学生11名を、アルファラビ・カザフ国立大学へ派遣しました。特筆すべきは、日本とウズベキスタンの外交樹立30周年を記念して9月28日(水)から30日(金)にかけて開催した、日本・ウズベキスタン学術・文化フォーラムです。初日には、第4回目となる日本ウズベキスタン学長会議をつくば国際会議場にて開催し、日本から24大学、ウズベキスタンから17大学が参加し、今後の両国のより緊密でさらなる教育・学術交流の発展が約束されました。2日目は同会議場にて、日本ウズベキスタン学生学術フォーラムを開催し、ウズベキスタンをフィールドワークとする日本人学生とウズベキスタン留学生が交流し、さらに日本とウズベキスタンのトップ研究者が意見交換する場を設けました。最終日のウズベキスタン文化ウィークでは、ウズベキスタンの音楽、舞踊、映画に親しむ機会をノバホールにて提供し、定員いっぱいとなる100名の方々に来場していただきました。同時に3日間にわたって、BiViつくばにてウズベキスタンの陶器、写真、アトラス、スザニ、伝統衣装などを展示し、計270名の方々にご来場いただきました。

上記の対面活動に加えて、コロナ禍で培ったオンラインのノウハウを活用することで、講演会や映画上映会では幅広い参加者を募ることに成功しました。一昨年から開催している、「オンラインによる1年生に贈る特別講演会」では、講師にカリフォルニア大学サンディエゴ校教授當作靖彦氏をお招きし、「混迷と変革の社会で成功するためにー今、大学時代に何をすべきかー」と題する講演をしていただきました。1年目から続く公開講演会シリーズ「中央ユーラシアと日本の未来」も今年度は計6回開催し、オンライン開催という場所を問わない気軽さから多くの聴講者に参加していただきました。また、前年度に引き続き、筑波大学SGU事業の一環として、デジタル技術に特化した講演会「Special Lecture and Discussion “The Road to Digital Transformation to Change Society”」を1回、日本や東アジア地域の最先端の中央ユーラシア研究を紹介する「Special Lecture and Discussion “Central Eurasian Studies In East Asia And Beyond”」を計4回開催しました。いずれの講演会シリーズも、各分野の研究・人材育成推進に資する内容であったと確信しています。毎年好評の「オンラインによるロシア・中央アジア映画上映会」は今年度も2回開催し、どちらもおよそ500名の申し込みがあり、SDGsの理解促進と中央アジアの文化に親しむ機会を提供しました。

その他、NipCAプロジェクト教員・スタッフは国内学会に2件、国際学会に9件参加し、中央

ユーラシア研究ユニットの活動も充実させています。研究図書は日本語と英語でそれぞれ 1 点を刊行し、うち日本語の学術書は東大出版会に助成しました。こうしたイベントの活動は全て、本プロジェクト HP (<https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp>) において、日本語・英語・ロシア語による活動報告を掲載しています。広報誌であるニューズレター『中央アジアと日本』第 6 号と令和 3 年度事業報告書も同 HP 上で公開しています。

NipCA プロジェクト 4 年目は、一部の事業（医学医療視察研修）のみ新型コロナウイルス感染症の影響で実施できませんでしたが、それ以外の活動は全般的にオンサイト活動を復活させ、講演会はオンライン開催の長所を生かして実施するなど、年次計画の目標を達成し、前年度以上の十分な成果をあげることができました。

「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト (NipCA)」

令和4(2022)年度 活動計画および活動実績(2022.4~2023.9)

項目	活動計画	活動内容
NipCA プロジェクト継続 (2022年4月)	2022年4月から「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト (NipCA)」4年目を開始する。	公益財団法人日本財団から教育・研究助成を受け、2022年4月から「日本財団中央アジア・日本人材育成プロジェクト (NipCA)」4年目を開始した。
運営体制の維持・継続 (2022年4月～)	学位取得を目的する正規留学生の受入業務という新しいミッションを持ったNipCAプロジェクトを軌道に乗せ、事業を安定的に推進し、本プロジェクト運営を確実なものにするために、前年度と同程度以上の教職員数の雇用を進める。	<p>① 本プログラム担当専任准教授 (SDGs 関連科目、インターンシップ科目等の教育業務、プロジェクト全体の企画・運営の推進等) を1名継続雇用した。</p> <p>② University International Administrator (NipCA プロジェクトコーディネーター、広報・企画・運営等担当) を1名継続雇用した。</p> <p>③ 非常勤研究員 (中央ユーラシア留学生学務・生活支援担当、中央ユーラシア海外研修・海外インターンシップ等国际交流実務支援担当、論文指導サポート担当) を3名、非常勤事務職員 (会計・総務担当) を2名継続雇用した。</p>
NipCA フェロシップ生受入 (2022年4月)	筑波大学大学院医学医療系公衆衛生学学位プログラムの入試合格者である第4期NipCAフェロシップ生1名が入学する。	筑波大学大学院医学医療系公衆衛生学学位プログラムに第4期NipCAフェロシップ生1名が入学した。
広報活動 (2022年4月～)	本事業を学内外に広く広報するため、ニュースレター作成、およびウェブサイトやSNSでの広報活動を行う。	<p>① NipCA プロジェクトのウェブサイト、日本語・英語・ロシア語による情報発信を行う。 【https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp/】</p> <p>② Newsletter「中央アジアと日本」6号 発行所：NipCA プロジェクト 発行日：2022年8月刊行 部数：300部</p> <p>③ 2021年度事業報告書 発行所：NipCA プロジェクト 発行日：2023年3月刊行 部数：100部</p>
中央ユーラシア研究	中央ユーラシア地域の研究・学術	① Timur Dadabaev ed. The Grass is Always Greener?: Unpacking Uzbek

<p>ユニット活動</p>	<p>交流を促進するため、中央ユーラシア研究ユニット活動を行う。</p>	<p>Migration to Japan (Politics and History in Central Asia). (Palgrave Macmillan, 2022).</p> <p>② ティムール・ダダバエフ、園田茂人編著『ウズベク移民と日本社会』（東京大学出版会、2023年）</p>
<p>公開講演会 Special Lecture and Discussion シリーズ “Central Eurasian Studies In East Asia And Beyond” (2022年4月～)</p>	<p>日本や東アジア地域の中央ユーラシア研究を英語で紹介し、本分野の研究と人材育成を推進するため、公開講演会を開催する。筑波大学 SGU 事業の一環として実施し、YouTube にて動画を広く公開する。</p>	<p>① 講師：Dr. BAKHROM RADJABOV (Webster University, Tashkent Campus) テーマ：“Social Innovations in Post-Soviet Countries” 日時：2022年4月25日（月）12:15～13:30 会場：Zoom 登録者数 302名（参加者数 30名）</p> <p>② 講師：Dr. NADZEYA SHUTAVA (Partnership for Public Service) テーマ：Pre-publication seminar: “Japanese Whaling and the People Behind it” 日時：2022年5月23日（月）12:15～13:30 会場：Zoom 登録者数 317名（参加者数 38名）</p> <p>③ 講師：Dr. DILNOZA UBAYDULLAEVA (Australian National University) テーマ：De-securitizing the Internationalisation in Uzbekistan’s Higher Education Policy 日時：2022年6月20日（月）12:15～13:30 会場：Zoom 登録者数 335名（参加者数 41名）</p> <p>④ 講師：Dr. MARIAM BIBILASHVILI (University of Tsukuba) テーマ：Pre-publication seminar: “Towards the “Normal” State: Georgian Foreign Policy between Russia and the West” 日時：2022年7月25日（月）12:15～13:30 会場：Zoom 登録者数 344名（参加者数 30名）</p>
<p>国際学会・国内学会参加 (2022年4月～)</p>	<p>NipCA プロジェクトに関わる本学人文社会系中央ユーラシア研究ユニットの教員・院生に対し、研究推進を後押しする目的で、国際学会参加への支援を行う。また、本</p>	<p>① 会議名：66th Annual Meeting of the Comparative and International Education Society (CIES Conference 2022) 日時：2022年4月18日（月）～22日（金） 発表者：筑波大学人文社会系准教授／NipCA プロジェクト担当教員 山本 祐規子 氏</p>

	<p>プロジェクトに直接寄与する中央ユーラシアの研究者に対しても、可能な範囲で支援する。</p>	<p>題目：Inclusive Pedagogy for Globalizing Higher Education: Evidence from Primary Qualitative Research on English-medium University Practices 場所：米国 ミネソタ州、ミネアポリス市 (Zoom 発表)</p> <p>② 会議名：日本語政策学会 (JALP) 第 24 回研究大会 日時：2022 年 6 月 18 日 (土) 発表者：筑波大学人文社会系教授/NipCA プロジェクト実務責任者 白山 利信 氏 題目：SDGs の可視化と地方自治体の多言語対応—茨城県の市町村を中心として— 場所：京都大学 吉田南キャンパス</p> <p>③ 会議名：The 15th Seoul ODA International Conference 日時：2022 年 9 月 1 日 (木) 発表者：NipCA プロジェクト研究員 インセバリエヴァ ナフィーサ 氏 題目：Modernity, Development and Decolonization of Knowledge in Central Asia: Kazakhstan as a Foreign Aid Provider 場所：韓国・ソウル</p> <p>④ 会議名：Thirty Years of Diplomatic Relations Between Georgia and Japan 日時：2022 年 9 月 7 日 (水) 発表者：筑波大学 SPJES コーディネーター マリアム ビビラシビリ 氏 題目：過去 30 年間の日本とジョージアの外交関係の変遷を探る政策論文 場所：ジョージア・トビリシ</p> <p>⑤ 会議名：Japan Central Asia Exchange Forum 2022 日時：2022 年 9 月 29 日 (木) 発表者・題目：スヴァノヴァ ユルドゥズホン NipCA SPJES フェロー 2021 年度生 (3 期生) 「Womens' Empowerment in Uzbekistan」、ヴァザロヴァ アサル NipCA SPJES フェロー 2021 年度生 (3 期生) 「The Experience of Aspiring Female Entrepreneurs with the Framework of Uzbekistan's Policy (2019-2022)」、マヴラノヴァ マフトゥナ NipCA SPJES フェロー 2021</p>
--	--	--

		<p>年度生（3期生）「Female engagement in STEM in Uzbekistan」 場所：茨城県つくば市</p> <p>⑥ 会議名：第8回国際報道・政治ジャーナル（IJPP） 日時：2022年9月22日（木）・23日（金） 発表者：筑波大学人文社会系教授／NipCA フェロー指導教員 タック 川崎 レスリー 氏 題目：New Political Actors in the Electoral Process: Japan’s Election Management Boards Online（選挙プロセスにおける新たな政治活 動：日本の選挙管理委員会とオンライン） 場所：英国ラフバラー大学</p> <p>⑦ 会議名：第34回カナダ日本研究会（JSAC） 日時：2022年10月21日（金）～23日（日） 発表者：筑波大学人文社会系教授／NipCA フェロー指導教員 タック 川崎 レスリー 氏 題目：Translating Views into Votes: Trends in Engaging Young Japanese Voters（意見を票に変える：”日本の若い有権者を取り 込むトレンド） 場所：カナダ、トロント、メトロポリタン大学</p> <p>⑧ 会議名：国際会議 文明のクロスロード 15『比較類型論研究の プリズムを通して、異なる文化、民族性、言語の相互理解 2』 日時：2023年3月11日（土） 発表者：カザフ国立大学東洋学部極東学科招聘教授／NipCA プ ロジェクト協力教員 二ノ宮 崇司 氏 題目：カザフスタンにおける発達障害者のための「やさしいカ ザフ語」と「やさしいロシア語」の作成過程 場所：ウズベキスタン、タシケント国立大学東洋学大学</p> <p>⑨ 会議名：日本・カザフスタン外交関係樹立 30周年記念研究者 交流会議 日時：2023年3月17日（金） 発表者：NipCA プロジェクト実務責任者・人文社会系 教授 白 山 利信 氏、筑波大学 UIA・NipCA コーディネーター 梶山 祐 治 氏 題目：筑波大学における教育・学術交流—日本財団 中央アジ ア・日本人材育成プロジェクト（NipCA）を中心に—</p>
--	--	---

		<p>場所：在日カザフスタン共和国大使館</p> <p>⑩ 会議名：Colloque International 2023 日時：2023年3月25・26日 発表者：筑波大学 UIA/NipCA コーディネーター 梶山 祐治氏 題目：マイダン革命以降のウクライナにおける言語と文化 場所：京都大学 人間・環境学研究科 地下大講義室</p>
<p>公開講演会 「中央ユーラシアと日本の未来」 (2022年6月～)</p>	<p>本事業の広い意味での地域社会貢献と、NipCAプロジェクトのフェローシップのみならず、学内の教職員、学外の研究者・学生たちへの問題意識の喚起を促す目的で、中央ユーラシア地域と日本が抱える社会的な課題や地球規模的課題に係るテーマで、有識者による公開講演会を実施する。筑波大学SGU事業の一環として実施。</p>	<p>「日本財団中央アジア・日本人材育成プロジェクト」主催連続公開講演会「中央ユーラシアと日本の未来」をオンラインで開催。当日ライブ視聴できなかった視聴者のために、manabaにて2週間限定で講演動画を配信する。</p> <p>① 講師：榊原 洋司 氏 (国際開発センター 経済開発部次長、主任研究員) テーマ：観光セクターから見た中央アジア 開催日：2022年6月13日 (月) 15:15～16:30 会場：Zoom 申込者数 90名 (参加者数 41名)</p> <p>② 講師：木村 友美 氏 (大阪大学大学院 人間科学研究科 専任講師) テーマ：高所住民の食と健康—ヒマラヤ高地ラダックにおけるフィールド調査から 開催日：2022年6月20日 (月) 15:15～16:30 会場：Zoom 申込者数 79名 (参加者数 57名)</p> <p>③ 講師：上野 迪音 氏 (高田世界館 支配人) テーマ：日本最古級の映画館再建とまちづくり 開催日：2022年8月30日 (火) 13:45～15:00 会場：Zoom 申込者数 66名 (参加者数 54名)</p> <p>④ 講師：西尾 彰泰 氏 (WHO 西太平洋事務局コンサルタント) テーマ：グローバルメンタルヘルスとは何か 開催日：2022年11月4日 (金) 17:00～18:15 会場：Zoom</p>

		<p>申込者数 67 名（参加者数 42 名）</p> <p>⑤ 講師：柿原 武史 氏（関西学院大学 商学部／大学院言語コミュニケーション文化研究科 教授）</p> <p>テーマ：持続可能な移民政策について考えるースイスの地方自治体における外国人統合政策と言語サービスの事例からー</p> <p>開催日：2022 年 11 月 15 日（火）18:00～19:15</p> <p>会場：Zoom</p> <p>申込者数 85 名（参加者数 61 名）</p> <p>⑥ 講師：藤井 久美子 氏（宮崎大学 多言語多文化教育研究センター 教授）</p> <p>テーマ：多言語国家台湾の今日までの歩み</p> <p>開催日：2023 年 3 月 6 日（月）</p> <p>申込者数 80 名（参加者数 61 名）</p>
<p>NipCA プロジェクト主催「ロシア・中央アジア映画上映会」</p> <p>（2022 年 6 月～）</p>	<p>SDGs の理解推進と中央アジアの文化紹介を兼ねて、ロシア・中央アジアの未公開作品に字幕をつけて日本初上映し、解説も行う。</p>	<p>1 上映作品：エウジェン・マリヤン『鳥のミルク』（2021 年、76 分）</p> <p>日時：2022 年 6 月 3 日（金）19:15～21:20</p> <p>作品解説：梶山 祐治（筑波大学 UIA／NipCA コーディネーター）「ウクライナの<隣国>沿ドニエストル共和国の表象」</p> <p>会場：Zoom、Vimeo</p> <p>申込者数 510 名（参加者数 424 名）</p> <p>2 上映作品：ヨルキン・トゥイチエフ『ファリダの二千の歌』（2020 年、110 分）</p> <p>日時：2023 年 2 月 3 日（金）19:15～21:50</p> <p>作品解説：梶山 祐治（筑波大学 UIA／NipCA コーディネーター）「現代ウズベキスタンの新しい映画の潮流」</p> <p>会場：Zoom、Vimeo</p> <p>申込者数 475 名（参加者数 349 名）</p>
<p>日本・ウズベキスタン学術・文化フォーラム</p> <p>（2022 年 9 月）</p>	<p>日本とウズベキスタンの外交が樹立されて 30 周年となることを記念して、日本・ウズベキスタン学術・文化フォーラムを開催する。</p>	<p>① 第 4 回日本ウズベキスタン学長会議</p> <p>日時：2022 年 9 月 28 日（水）10:00～19:30</p> <p>場所：つくば国際会議場、ホテル日航つくば</p> <p>参加大学：</p> <p>【ウズベキスタン共和国】1. TURABDJANOV Sadritdin (Rector, Tashkent State Technical University), 2. MADJIDOV Inom (Rector, National University of Uzbekistan), 3. AKHATOV Akmal (Vice-Rector, Samarkand State University), 4. GULAMOV Abdulaziz</p>

		<p>(Interim Rector, Tashkent State Transport University), 5. SAFOEV Sodiq (Rector, The University of World Economy and Diplomacy), 6. RIKHSIEVA Gulchekhra (Rector, Tashkent State University of Oriental Studies), 7. KHUDAYKULOV Adham (Advisor to the Rector, Tashkent State University of Economics), 8. REYMOV Akhmed (Rector, Karakalpak State University), 9. SHADMANOV Alisher (Rector, Tashkent Medical Academy), 10. URINOV Akmaljon (Vice-Rector, Fergana State University), 11. BAYMAKOV Sayfiddin (Vice-Rector, Tashkent State Dental Institute), 12. KUDRATKHUJA Sherzodkhon (Rector, The University of Journalism and Mass Communications of Uzbekistan), 13. MAKHKAMOV Bakhtiyor (Rector, Tashkent University of Information Technologies), 14. MEKHMUNOV Sultonali (Vice-Rector, Tashkent Institute of Finance), 15. ALIEV Sukhrob (Vice-Rector, Andijan Mechine-Building Institute), 16. MIRZAEV Bakhadir (Rector, Tashkent Institute of Irrigation and Agricultural Mechanization Engineer), 17. AMIROVA Nargiza (Director, Uzbekistan-Japan Youth Innovation Center)</p> <p>【日本】 1. 横田 篤 理事・副学長 (北海道大学)、2. 後藤 猛 副学長、藤井 光 副学長 (秋田大学)、3. 永田 恭介 学長、ベントン キャロライン 理事・国際担当副学長、桑原 達也 国際担当 副理事 (筑波大学)、4. 藤谷 浩至 統合国際機構事務部長 (特任教授) (東京医科歯科大学)、5. 松隈 潤 副学長 (東京外国語大学)、6. 川端 良子 准教授 (東京農工大学)、7. 松本 尚之 国際戦略推進機構企画推進部門長 (横浜国立大学)、8. 坪井 望 副学長 (国際交流) (新潟大学)、9. 杉山 直 総長 (名古屋大学)、10. 伊藤 千尋 学長 (和歌山大学)、11. 松村 明 学長 (茨城県立医療大学)、12. 倉地 久 副学長 (愛知県立芸術大学)、13. 金子 百合子 国際交流センター長 (神戸市外国語大学)、14. 岡田 隆 学術研究担当副学長 (上智大学)、15. 鈴木 将史 学長 (創価大学)、16. 高松 研 学長 (東邦大学)、17. 矢口 悦子 学長 (東洋大学)、18. 辻中 豊 学長 (東洋学園大学)、19. 櫻井 隆 学長 (文京学院大学)、20. 富山 栄子 地域・国際担当副学長 (事業創造大学院大学)、21. 佐分 晴夫 学長 (名古屋経済大学)、22. 星野 昌裕 グローバル化推進担当副学長 (南山大学)、23. 菱川 邦俊 外国語学部ロシア語学科長 (京都外国語大学)、24. アシューロバ ウミダホン 准教授 (金城学院大学)</p> <p>参加者数 : 83 名 (ウズベキスタン側 29 名、日本側 54 名)</p>
--	--	--

		<p>② 日本・ウズベキスタン学生学術フォーラム 2022</p> <p>① 日本・ウズベキスタン学生フォーラム 日時：2022年9月29日（木）9:30～12:30 場所：つくば国際会議場 報告者・題目： ジヨフジャエフ ジャムフル（筑波大学 理工情報生命学術院 生命地球科学研究群 生物資源科学学位プログラム M1）「世界のアクアポニックス現段階と問題点」 才川 航太（筑波大学 人文社会ビジネス科学学術院 人文社会科学研究群 国際日本研究学位プログラム M1）「日本における狐異類婚姻譚の変遷」 奥 智佳（筑波大学 人文社会ビジネス科学学術院 人文社会科学研究群 国際日本研究学位プログラム M1）「戦間期日本におけるドイツ映画受容」 石山 実弥（筑波大学 人文社会ビジネス科学学術院 人文社会科学研究群 国際公共政策学位プログラム M1）「中央アジアにおけるティムール像の変遷」 渡邊 琉可（東京外国語大学 国際社会学部 国際社会学科 中央アジア地域専攻 2年）「ウズベキスタンにおける移動、集合と民俗」 マヴラノヴァ マフトゥナ（筑波大学 人文社会ビジネス科学学術院 人文社会科学研究群 国際公共政策学位プログラム M1） 「ウズベキスタンの STEM における女性の関わり」 スヴァノヴァ ユルドゥズホン（筑波大学 人文社会ビジネス科学学術院 人文社会科学研究群 国際公共政策学位プログラム M1）「ウズベキスタンにおける女性の活動」 バザロヴァ アサル（筑波大学 人文社会ビジネス科学学術院 人文社会科学研究群 国際公共政策学位プログラム M1）「野心ある女性起業家の経験とウズベキスタンにおける政策（2019-2022年）の枠組み」 参加者数：50名</p> <p>② 日本・ウズベキスタン学術フォーラム 2022 日時：2022年9月29日（木）14:00～17:00 場所：つくば国際会議場 報告者・題目：</p>
--	--	---

		<p>小松 久男（東京大学 名誉教授）「日本における中央アジア研究—到達点と展望—」</p> <p>川端 良子（東京農工大学 農学研究院 准教授）「ウズベキスタンと東京農工大学の農業面における共同研究」</p> <p>田中 康平（筑波大学 生命環境系 助教）「ウズベキスタンにおける恐竜研究」</p> <p>アブドゥハリモフ バフロム（ウズベキスタン共和国科学アカデミー副総裁）「人文学分野における日本とウズベキスタンの協力展望」</p> <p>アミノワ ナルギザ（ウズベキスタン・日本青年技術革新センター センター長）「地平線の向こうへ—ウズベキスタンと日本の学術・産業面での協力促進—」</p> <p>参加者数：45名</p> <p>③ ① ウズベキスタン文化ウィーク</p> <p>陶器、写真、アトラス、スザニ、伝統衣装等の展示：</p> <p>日時：2022年9月28日（水）～30日（金）</p> <p>場所：BiVi つくば</p> <p>来場者数：270名</p> <p>② イベント：</p> <p>日時：2022年9月30日（金）</p> <p>場所：ノバホール（小ホール）</p> <p>講演：</p> <p>塩谷 哲史（筑波大学 人文社会系 准教授）「ウズベキスタンの歴史と文化—未来へのかけはし—」</p> <p>川端 良子（東京農工大学 農学研究院 准教授）「ウズベキスタン共和国シルクロード農村副業復興計画—フェルガナ州における養蚕農家の生計向上モデル構築プロジェクト—（JICA）」</p> <p>ウズベキスタンの伝統音楽演奏、舞踊：</p> <p>駒崎 万集（ドゥタール）、佐藤 圭一（アフガンラバープ）、立岩 潤三（パーカッション）、駒崎 りら（ヴァイオリン）、中央アジア・シルクロード 舞踊団グリスタン（舞踊）</p> <p>ウズベキスタン映画上映：</p> <p>上映作品：ヨルキン・トゥイチエフ監督「ファリダの二千の歌」（2020年）</p> <p>解説：梶山 祐治（筑波大学 UIA・NipCA コーディネーター）</p> <p>来場者数：100名</p>
--	--	---

<p>NipCA フェロシップ生受入 (2022年10月)</p>	<p>筑波大学大学院人文社会科学研究所国際地域研究専攻の入試合格者である第4期 NipCA フェロシップ生7名が入学する。</p>	<p>筑波大学大学院人文社会科学研究所国際公共政策学位プログラムに第4期 NipCA フェロシップ生7名が入学した。</p>
<p>学会参加 (2022年10月～)</p>	<p>NipCA プロジェクトに関わる本学人文社会系中央ユーラシア研究ユニットの教員・院生に対し、研究推進を後押しする目的で、国際学会参加への支援を行う。また、本プロジェクトに直接寄与する中央ユーラシアの研究者に対しても、可能な範囲で支援する。</p>	<p>会議名：第81回日本公衆衛生学会 日時：2022年10月7(金)～9日(日) 発表者：第4期 NipCA フェロー バディエワ・アイザダ 題目：“Case-Specific Standardized mortality by region in Kazakhstan” 場所：山梨県甲府市</p>
<p>JACAFA 日本研修プログラム (2022年10月)</p>	<p>NipCA プロジェクトと JACAFA (日本・中央アジア友好財団) と連携・協力し、JACAFA 同窓生のための日本研修プログラムを実施する。プログラムの中に、本学 GENIS プログラム生とのラウンドテーブルや、本学の研究施設等視察の機会を提供する。</p>	<p>開催日：2022年10月11日(月)～12日(火)</p> <p>① 日本研修 日時：10月11日(月) 10:30～12:00 訪問先：サイバーダイブ 参加者：JACAFA フェロー5名、ヴルボスキ 京子 JACAFA 会長、沼田 雅子 氏(日本財団 国際事業部)、梶山 祐治 NipCA コーディネーター</p> <p>② Japan Central Asia Exchange Forum 2022 日時：10月11日(月) 15:00～17:00 会場：筑波大学 総合研究棟 A 110 報告者・題目：</p> <ol style="list-style-type: none"> Asal Bazarova (NipCA Fellow 2021, University of Tsukuba) “The Experience of Aspiring Female Entrepreneurs with the Framework of Uzbekistan’s Policy (2019-2022)” Zamirbek Asirbaev (JACAFA Fellow, Kyrgyzstan) “Food Security in Central Asia” Doniyor Makhmudov (JACAFA Fellow, Uzbekistan) “Transformation of Youth Development Sphere in Uzbekistan” Hadyatulloi Azimzoda (JACAFA Fellow, Tajikistan) “Modern Hiring Approaches – A Way to Social Innovation” Bakbergen Ryskulov (JACAFA Fellow, Kyrgyzstan) “Using Machine Learning in Economic Research” Iskander Akylbayev (JACAFA Fellow, Kazakhstan) “How to prepare a Leader in 21st Century”

		<p>③ つくば市長表敬訪問</p> <p>日時：10月12日（火）10:30～10:45</p> <p>参加者：JACAFA フェロー5名、ヴルボスキ 京子 JACAFA 会長、山本 祐規子（人文社会系准教授）</p>
<p>日本財団会計監査 （2022年10月）</p>	<p>NipCA プロジェクト 2020年度の助成事業に対して、日本財団の会計監査を受ける。</p>	<p>日時：2022年10月20日（木）13:30～15:00</p> <p>場所：筑波大学1D棟</p> <p>出席者：中村 真美子（日本財団 監査部長）、関根 久雄（筑波大学 人文社会系長）、大根田 修（国際室 国際局長）、桑原 達也（国際担当 副理事）、白山 利信（人文社会系 教授・NipCA プロジェクト 実務責任者）、鈴木 早苗（人文社会エリア支援室長）、山口 和好（人文社会エリア支援室 主幹）、上村和也（人文社会エリア支援室 主任）、飯田 友紀（筑波大学 人文社会エリア支援室）、古徳あき子（NipCA プロジェクト 非常勤職員）、谷越 祥子（NipCA プロジェクト 非常勤職員）</p>
<p>公開講演会 Special Lecture and Discussion シリーズ "The Road to Digital Transformation to Change Society" （2022年10月）</p>	<p>デジタル技術を駆使し、地域課題および地球規模課題の解決・改善に取り組む様々な事例などを学ぶことを通じて、社会変革を推進する人材育成を目指す公開講演会を開催する。筑波大学 SGU 事業の一環として実施。</p>	<p>講師：谷口 守 氏（筑波大学 システム情報系 社会工学域 教授）</p> <p>テーマ：多様化するスマートシティとその課題</p> <p>日時：2022年10月27日（木）13:45～15:00</p> <p>会場：スチューデントコモンズ、Zoom</p> <p>申込者数 46名（参加者数 27名）</p>
<p>第4回運営委員会 （2022年11月）</p>	<p>Ge-NIS+ 「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト（NipCA）」 「ロシア・日本人材育成プロジェクト」 令和2年度第2回 プロジェクト運営委員会を開催し、本プロジェクトの承認を受ける。</p>	<p>日時：2022年11月8日（火）13:30～14:30</p> <p>会場：Zoom</p> <p>出席委員：加藤 光保 副学長（教育担当）・理事・グローバル教育院長（運営委員会委員長）、ベントン・キャロライン副学長（国際担当）・理事・グローバル・コモンズ長（運営委員会副委員長）、原 晃 副学長（医療担当）・理事・附属病院長、大根田 修 国際室長、田中 誠 医学群長、白山 利信 人文社会系 教授、山本 祐規子 人文社会系 准教授、梶山 祐治 NipCA コーディネーター、グロマリエフ シラリ 非常勤研究員、ソイポフ ジャスル 非常勤研究員、インセバイエヴァ ナフィーサ 非常勤研究員、谷越 祥子 学生交流課 職員</p>
<p>SDGs 研修： 沖縄研修 （2023年2月）</p>	<p>人文社会科学研究所国際地域研究専攻開設科目である「日本企業インターンシップ」（1単位）の教育活動として実施する。</p>	<p>開催日：2023年2月8日（水）～11日（土）</p> <p>訪問先：沖縄県立八重山高校、八重山殖産、竹富島、環境庁国際サング礁研究モニタリングセンター、沖縄県立八重山商業高校</p> <p>参加者数：14名</p> <p>（第3期 NipCA フェロー6名、第4期 NipCA フェロー8名）</p> <p>担当教員：白山 利信（人文社会系 教授）、山川 和彦（筑波大学 非</p>

		常勤講師、麗澤大学 教授)、山本 祐規子 (人文社会系 准教授)、谷越祥子 (学生部学生交流課 職員)
第4回 外部評価委員会 (2023年2月)	Ge-NIS プログラムでの外部評価の経験を踏まえて、外部評価委員会が本プロジェクトの実施状況を評価するとともに、同委員会と本プロジェクト実務者が改善に向けた協議を行う。	日時: 2023年2月16日 (木) 外部評価委員: 當作 靖彦氏 (カリフォルニア大学サンディエゴ校教授)、小野澤 正喜氏 (育英短期大学 教授)、中里 太治氏 (国際協力機構 東・中央アジア部 部長)、市場 裕昭氏 (外務省欧州局 中央アジア・コーカサス室 室長)、岸田 和克子氏 (つくば市長公室 国際都市推進課長) 会場: Zoom
2022年度 筑波大学 1年生に贈るオンライン講演会 (2023年2月)	新型コロナウイルス感染症の影響を受けた生活を余儀なくされた1年生のため、特別講演会をオンラインで開催する。	新型コロナウイルス感染症の影響を受けた生活を余儀なくされた1年生のため、今後のキャンパスライフへの活力と知的好奇心の向上に繋げられるような機会を提供する。主催は筑波大学 NipCA プロジェクトにより、グローバル・コモンズ、グローバルコミュニケーション教育センター、スーパーグローバル大学 (SGU) 事業推進室との共催、筑波大学学生部、国際室との協力でオンラインにて開催する。当日ライブ視聴できない学生のために、manabaにて2週間限定で講演動画を配信する。 講師: 當作 靖彦 (カリフォルニア大学サンディエゴ校 教授) テーマ: 混迷と変革の社会で成功するために—今、大学時代に何をすべきか— 日時: 令和5年2月21日 (火) 13:45~15:00 会場: Zoom 申込者数 93 (参加者数 64名)
ロシア語・カザフ語 研修 (2023年2月)	学生への現地でのロシア語・カザフ語学習の機会を提供するため、カザフスタンへの研修を実施する。また、学生へのモチベーション付与を兼ねて、海外研修および留学報告会を開催する。	日時: 2023年2月17日 (金) ~3月24日 (金) 場所: アルファラビ・カザフ国立大学 (カザフスタン共和国アルマトイ市) 参加者: 竹内 翔一郎 (人文・文化学群人文学類3年)、村上 明叶 (生命環境学群地球学類3年)、上殿 恵美 (社会・国際学群国際総合学類2年)、木村 実由 (社会・国際学群国際総合学類2年)、大野 桜子 (社会・国際学群国際総合学類2年)、ジョ イクカン (医学群看護学類2年)、森西 理温 (人文・文化学群人文学類1年)、飯田 陽斗 (人文・文化学群人文学類1年)、松田 直也 (理工学群工学システム学類1年)、鳥居 健太 (理工学群数学類1年)、吉田 快斗 (社会・国際学群国際総合学類1年)
海外研修 (2023年3月)	医学群の学生を対象に、医学医療視察研修を実施し、ロシア(モスクワ)及びカザフスタン(ヌルスルタ	*新型コロナウイルス禍により中止

	ン・アルマトイ)の医科大学や医療機関、研究機関などを訪問する。	
第3期笹川フェロー 修了式 (2023年9月)	大学院修士課程を修了する第3期 NipCA フェローが、第3期笹川 NipCA フェロー修了式に出席し、日本財団笹川陽平会長に対して、帰国前にお礼と感謝の言葉を述べる機会を設ける。	筑波大学大学院人文社会科学研究群国際公共政策学位プログラム博士前期課程 Special Program in Japanese and Eurasian Studies(SPJES)を修了した第3期 NipCA フェロー6名、および現在同課程で勉強中の第4期 NipCA フェロー8名、同博士課程で勉強中の第1期 NipCA フェロー1名が日本財団笹川陽平会長を表敬訪問し、第3期 NipCA フェローには同会長より笹川 NipCA フェロー認定証が授与された。 日時：2023年9月11日(月) 場所：日本財団ビル(東京都港区) 参加者：第1期 NipCA フェロー1名、第3期 NipCA フェロー6名、第4期 NipCA フェロー8名、NipCA プロジェクト教員・スタッフ5名

資料1 NipCA フェローシップ生リスト

人文社会科学研究科 国際地域研究専攻（修士課程）
Special Program in Japanese and Central Eurasian Studies

令和元（2019）年度10月入学者

「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト(NipCA)」

第1期生 日本財団中央アジアフェローシップ 6名

	氏名	国籍	研究テーマ	修士論文題目	就職先
1	Boteu Saltanat ボテウ・サルタナート	カザフスタン	Environmental sustainability practices in Japan, its cultural aspects and applicability	Environmentally Friendly Consumption from the Perspective Environmental Entrepreneurs in Kazakhstan	UNDP local office in Kazakhstan, Nursultan, in the communications department as a Communications and Social Media Specialist. Assigned to the UNDP as a UN National Volunteer Specialist.
2	Geldiyeva Mivegozel ゲルディエヴァ・ミヴェゴゼル	トルクメニスタン	Energy security issues in Central Asia	The Emerging Role of Universities in International Relations: A Case Study of the University of Tsukuba	筑波大学大学院 人文社会科学研究科 博士課程
3	Muratbekova Aigerim ムラトベコヴァ・アイゲリム	キルギス	Bullying among children in Japanese schools	Exploring the Causes of School Bullying in Kyrgyzstan and Prevention Measures Through Policy and Actor Perspectives	Campus Staff, Every Nation Every Nation Churches & Ministries
4	Qambarova Nilufar カムパロヴァ・ニルファール	タジキスタン	Freedom and Constraints of the Press in Tajikistan	Understanding Gender Roles of Ismaili Pamiri Women in a Traditional Society	Human Centered Design Officer, Local Impact Project, Aga Khan Foundation
5	Aliyeva Tubu アリエヴァ・トゥブ	アゼルバイジャン	A comparative study between Azerbaijan and Japan in order to investigate the role of tourism in economic and environmental sustainability of newly formed states	The Development of Socially Sustainable Urban Tourism in Baku: Exploring Residents' Attitudes	ESP Support Operator/Customer Care SDZ Technologies and Services
6	Zakaryanov Ilyas ザカリヤノフ・イリヤス	カザフスタン	Sustainable development of East Kazakhstan in conditions of regional inequality of the country	Agritourism's Contribution to Sustainable Development in Rural Areas of the Republic of Kazakhstan: A Case Study of the East Kazakhstan Region	Fihugie financial holdimg

人文社会科学部 国際地域研究専攻（修士課程）
Special Program in Japanese and Central Eurasian Studies

令和2（2020）年度10月入学者

「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト(NipCA)」

第2期生 日本財団中央アジアフェローシップ7名

	氏名	国籍	修士論文題目	就職先
1	Abdullayev Ramil アブドゥラエフ・ ラミル	アゼルバイジャン	Inclusive Education in State Universities in Azerbaijan: Current Status and Challenges	MOFA Azerbaijan
2	Mukhamejanova Aizhan ムハメジャノヴァ・ アイジャン	カザフスタン	The Experience of Female Repatriation in Kazakhstan: A Case Study of the Mangystau Region	Research Assistant, Nazarbayev University
3	Nurlan kyzy Aliia ヌルラン・キジ・ アリヤ	キルギス	Women in Kyrgyz Parliament: The Role of Quota System in Gender Equality	Business manager, OVOP (One Village One Product)
4	Osmonova Gulzada オスモノヴァ・ グルザダ	キルギス	The Perceptions of Child Labor and Its Reasons: A Case of Batken Region, Kyrgyzstan	Project Manager, KOPIA Center (Korea Partnership for Innovation of Agriculture)
5	Ospanova Sofya オスパノヴァ・ ソフィヤ	カザフスタン	Organizational Transformation of the Kazakhstan-Japan Center for Human Development	進学準備中
6	Rajabova Manizha ラジャボヴァ・ マニジャ	タジキスタン	From Brain Drain to Brain Gain: Motivations of Tajik Students to Return Home	Delegation of the European Union to Tajikistan
7	Suiunbekova Saikal スイウンベコヴァ・ サイカル	キルギス	The Impact of JICA's "One Village One Product" Project on the Contribution of Females to Household Income in the Issyk-Kul Region, Kyrgyzstan	OVOP (One Village One Product)

人文社会科学研究群 国際公共政策学位プログラム（修士課程）
Special Program in Japanese and Central Eurasian Studies

令和3（2021）年度10月入学者

「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト(NipCA)」

第3期生 日本財団中央アジアフェローシップ 6名

	氏名	国籍	修士論文題目	指導教員
1	Bazarova Asal バザロヴァ・アサル	ウズベキスタン	Women's Entrepreneurial Experiences and the Roles of the Women's Entrepreneurship Center in Tashkent (WECT) in Creating Opportunities in Uzbekistan	山本祐規子
2	Malakbozova Munira マラクボゾヴァ・ムニラ	タジキスタン	Work Transition and Employability of Students: Insights from Recent Graduates and Employers from 2020-2022 in Tajikistan	ダダバエフ・ティムール、 塩谷哲史
3	Nyussupov Assylzhan ニユスポフ・アシルジャン	カザフスタン	From Advocacy to Legislation: A Comprehensive Investigation of Civil Society's Role in Shaping Cyberbullying Law in Kazakhstan	インセバイエヴァ・サビーナ、 タック川崎レスリー
4	Mavlonova Maftunakhon マヴロノヴァ・マフトウナホン	ウズベキスタン	Women in STEM in Uzbekistan: Understanding their decision to pursue STEM and their perception of its promotion	山本祐規子
5	Smanova Nargiza スマノヴァ・ナルギザ	カザフスタン	Legal and Social Elements of Police Response to Domestic Violence Against Women in Kazakhstan	タック川崎レスリー
6	Suvanova Yulduzhon スヴァノヴァ・ユルドゥズホン	ウズベキスタン	Beyond Binaries: Discursive Strategies in Identity (Re-)Construction of Uzbek Women	ダダバエフ・ティムール

医学医療系 公衆衛生学学位プログラム（修士課程）
Special Program in Japanese and Central Eurasian Studies

令和4（2022）年度4月入学者

「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト(NipCA)」

第4期生 日本財団中央アジアフェローシップ 1名

	氏名	国籍	研究テーマ	指導教員
1	Badiyeva Aizada バディエヴァ・アイザダ	カザフスタン	Effects on Children Exposed to Radiation through their Parents in Semipalatinsk with an emphasis of congenital heart defects. Prevention and/or reduction methods	我妻ゆき子

人文社会科学研究群 国際公共政策学位プログラム（修士課程）

Special Program in Japanese and Central Eurasian Studies

令和4（2022）年度10月入学者

「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト(NipCA)」

第4期生 日本財団中央アジアフェローシップ 7名

	氏名	国籍	研究テーマ	指導教員
1	AITIMBETOVA Aidai アイティムベトヴァ・アイダイ	キルギス	The role of women's organization in promoting female entrepreneurship in Japan	山本祐規子
2	TEMERKHANOV Artru テメルカーノフ・アルトゥル	カザフスタン	Female political participation in Kazakhstan	ダダバエフ・ティムール
3	BEKBOSSYNOVA Aruzhan ニュスポフ・アルジャン	カザフスタン	Education for sustainable development and youth engagement in Kazakhstan	山本祐規子
4	ALTYNBEK KYZY Cholpon アルチンベク・キジ・チョルボン	ウズベキスタン	Civil Society Organizations' Participation for Achieving Sustainable Development Goals in Kyrgyzstan	タック川崎レスリー
5	DAVRONOVA Farangis ダヴロノヴァ・ファランギス	タジキスタン	How Central Asia media talk about gender aspects of harassment	塩谷哲史
6	BERKINOV Jakhongir ベルキノフ・ジャホンギル	ウズベキスタン	Civil servants ethics and social media usage in Uzbekistan	タック川崎レスリー

7	SAMATOVA Nodira サマトヴァ・ノディラ	ウズベキスタン	Japanese higher education system management. Comparison of education system management of Japan and Uzbekistan	ダダバエフ・ティムール
---	--------------------------------------	---------	--	-------------

資料2 令和4(2022)年度 プロジェクト運営委員会委員リスト

敬称略

	役割等	氏名	所属・役職
1	委員長	加藤 光保	副学長(教育担当)・理事・グローバル教育院長
2	副委員長	ベントン キャロライン	副学長(国際担当)・理事・ 国際局グローバル・コモンズ長
3	副委員長	原 晃	副学長(医療担当)・理事・附属病院長
4	委員	関根 久雄	大学執行役員・人文社会系長
5	委員	川上 康	大学執行役員・医学医療系長
6	委員	西保 岳	大学執行役員・体育系長
7	委員	井田 仁康	大学執行役員・人間系長
8	委員	大根田 修	大学執行役員・国際局国際室長
9	委員	坪内 孝司	大学執行役員・教学デザイン室長
10	委員	桑原 達也	副理事(国際担当)
11	委員	八田 弘	教育推進部長
12	委員	関 瑞穂	学生部長
13	委員	平松 祐司	附属病院副病院長・同院国際医療センター部長・ 医学医療系教授
14	委員	竹中 佳彦	学長補佐室長・人文社会ビジネス科学学術院長
15	委員	大淵 真喜子	ビジネス科学研究群長
16	委員	大倉 浩	人文・文化学群長

17	委員	土井 隆義	社会・国際学群長
18	委員	樋口 直宏	人間学群長
19	委員	木塚 朝博	体育専門学群長
20	委員	田中 誠	医学群長
21	委員	武井 陽介	医学類長
22	委員	我妻 ゆき子	医学医療系教授・公衆衛生学学位プログラムリーダー
23	委員	臼山 利信	本プロジェクト実務責任者・国際公共政策学位プログラムリーダー・人文社会系教授
24	委員	小野 正樹	本プロジェクト副実務責任者・CEGLOC 長・学長補佐・人文社会系教授
25	委員	加藤 百合	本プロジェクト副実務責任者・人文社会系教授
26	委員	ダダバエフ ティムール	本プロジェクト協力教員・人文社会系教授
27	委員	田村 洋貴	教育推進部教育推進課長
28	委員	福田 正浩	国際局国際室担当課長
29	委員	高橋 浩一	国際局グローバル・commons担当課長
30	委員	関本 啓子	学生部学生交流課長
31	委員	鈴木 早苗	人文社会エリア支援室長
32	委員	迎 和博	医学医療エリア支援室長

資料3 令和4（2022）年度 外部評価委員会委員リスト

敬称略

	役職等	氏名	所属・役職
1	委員長	當作 靖彦	カリフォルニア大学サンディエゴ校教授
2	副委員長	小野澤 正喜	育英短期大学理事・名誉教授
3	委員	中里 太治	独立行政法人国際協力機構（JICA） 東・中央アジア部 部長
4	委員	市場 裕昭	外務省欧州局中央アジア・コーカサス室室長
5	委員	岸田 和克子	つくば市長公室国際都市推進課長

資料4 令和4(2022)年度 プロジェクトスタッフリスト

敬称略

運営体制	氏名	職位・役職	役割
プロジェクト実務 責任者	白山 利信	人文社会系教授	全体統括
プロジェクト実務 副責任者	小野 正樹	人文社会系教授	全体統括補佐
プロジェクト実務 副責任者	加藤 百合	人文社会系教授	全体統括補佐
プロジェクト担当 教員	山本 祐規子	人文社会系准教授	プロジェクト推進業務 担当
プロジェクト担当 教員 ※2022年6月30 日退職済み	インセバイエヴァ サビーナ	人文社会系助教	プロジェクト教育業務 担当
プロジェクト コーディネーター	梶山 祐治	インターナショナル アドミニストレーター	運営・企画・広報等 担当
実務スタッフ ※2023年6月30 日退職済み	グロマリエフ シラリ	非常勤研究員	留学生サポート担当
実務スタッフ	インセバイエヴァ ナフィーサ	非常勤研究員	論文指導サポート担当
実務スタッフ	ソイポフ ジャスル	非常勤研究員	新規プロジェクト担当
実務スタッフ ※2022年8月31 日退職済み	ゲルディエヴァ ミヴェゴゼル	非常勤研究員	翻訳担当
支援スタッフ ※2023年9月30 日退職済み	古徳 あき子	非常勤職員	会計担当
支援スタッフ	谷越 祥子	非常勤職員	総務担当

令和4年度(2022.4～2023.9)
(半年間延長の特別措置を含む)

日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト (NipCA プロジェクト)
Nippon-Foundation Central Asia-Japan Human Resource Development Project
事業報告書

2023年12月1日発行

監 修 臼山 利信
編集・校正 梶山 祐治 (主担当)、山本 祐規子、谷越 祥子
発 行 者 臼山 利信
発 行 所 筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト (NipCA)」
茨城県つくば市天王台 1-1-1
Tel: 029-853-4251
E-mail: info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp
Web: <https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp/>
印刷・製本 メディア情報株式会社



日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト
(NipCA Project)
〒305-8571 茨城県つくば市天王台 1-1-1 筑波大学
Tel. 029-853-4251
E-mail: info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp
Web: <https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp>